看護学科 教員&事務職員紹介

解剖学

嵯峨教授

基礎医学

松本准教授

母性看護学

後列左から：岡村助教・竹藤助教・永田助教
前列左から：跡上准教授・田中教授・加藤准教授

老年看護学

左から：草場(知)講師・古村教授・新助教

小児看護学

左から：水落助教・益守教授・藤好講師

精神看護学

左から：福浦講師・舞弓准教授・松島助教

在宅看護学

左から：森永助教・渡邊講師・松野助手

事務職員

後列左から：藤竹係員・山下課長補佐・長田係長・伊藤係長
前列左から：堀内課長・大石参事・鬼塚係員・藤山係員

地域看護学

左から：徳澤講師・佐藤准教授・重松教授・小畠助教・椛准教授

基礎看護学

後列左から：山田助教・三次助教・草場(万)助教
前列左から：前野講師・加悦教授・恒松准教授

成人看護学

後列左から：池上助教・姫野講師・河原田講師・孫田講師・石橋助教
前列左から：崎浜教授・原教授・桐明准教授

寄付のお願い

「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」への寄付のお願い

2021年3月から、看護学教育の充実・振興を目的とした「久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金」を創設しました。皆々様からのご支援により更なる看護学科の教育の充実を図りたいと考えております。

詳しくは本学HPをご覧いただくか、下記のQRコードをご参照ください。また、ご寄付は税制上の優遇措置（寄付金控除）の対象になっております。

久留米大学医学部看護学科教育研究振興資金へ、皆さまからの温かいご支援をお待ちしております。

寄付金額　1口　1万円　1口以上

問合せ先　久留米大学医学部事務部　看護学科事務室
電話0942-31-7714

編集後記

皆さん、今回のはなみずきはいかがでしたか？昨年も学生生活に制限がある中で、みなさん一人一人が授業や実習、様々な活動を通し、精一杯頑張り楽しむことができたのではないかと思います。まだまだ制限のある生活が続いていくと思いますが、こうして授業や実習をさせていただける環境に感謝の気持ちを忘れず、4月からの新学期もさらに多くのことを学び、将来の目標に向かって1歩ずつ歩んで行けたらと思います。はなみずきを通して新入生の皆さんは学校生活について少しでもイメージを膨らませることができたでしょうか。新たな一年を、精一杯勉学に励み大いに学生生活を楽しみましょう！

2022年度 学科通信委員

2年生　阿部 美咲　大谷 莉未　呉　采瞳
3年生　坂田 菜夏　窪山 日菜　中島 かりん
4年生　小濱 千尋　及川 千穂　佐々木 七海
2022年度卒業生　岸田 龍世　桐村 明莉　末吉 友香

看護学科通信 はなみずき 第61号

Kurume University School of Nursing
777-1, Higashi-kushihara, Kurume City 830-0003 Japan
Tel.0942-31-7714　Fax.0942-31-7715

インド・ミティラー地方の
民族画“スーリヤムッキーの木”

看護学科長　益守 かづき

仲間とともに看護を学ぶ楽しさを！

30回生119名の皆さん、ご入学おめでとうございます。看護師、保健師あるいは助産師や養護教諭など自身の夢に一歩近づきました。令和４年５年の国家試験において、先輩方は看護師・保健師全員合格という快挙を達成しました。自分が頑張るのはもちろんのこと、仲間とともに頑張ることで、学習がさらに楽しく感じることもあるでしょう。同じ志を抱く仲間との出会いは、人間力を豊かなものにしてくれます。学内外の仲間との交流も充実させましょう。Withコロナという新たな生活が求められる中、自分の周囲だけではなく、今世界で起こっていること、戦争や貧困、人権問題などにも関心をよせ、学生として取り組めることを創造してください。

教務委員長　田中 佳代

自分の夢に繋がる4年間に！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。30回生という記念すべき入学生の皆さんには、看護学科の新しい1頁を作っていく役割を担って頂くことを大いに期待しています。私たち看護職者は、生命の誕生を待ち望む方、老いを迎える方、病と共にある方、死に向かう方々と接します。そのような方々に看護を提供できるために大学で学ぶことは、時にハードかもしれません。しかし、一つ一つの科目全てがその基礎となり、将来に繋がるものにもなります。自分の将来を見据えて、確実に日々の学習を積み重ねると共に、学生時代に学びたいこと経験したいことを考え、自律して取り組み、充実した大学生活を過ごしてください。皆さんのこれからを教職員一同、支援していきたいと思います。

1年生担任 ご挨拶

1年生クラス担任 **加藤 陽子**　　担任補佐 **新 裕紀子**

令和5年度の新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。新入生の皆様は30回目の久留米大学医学部看護学科入学生としての第1歩を踏み出しています。これからの看護大学生生活では、看護学の専門的な知識や技術の習得及び学内外における様々な経験を通じ、看護者、そして人としての成長を遂げられる大学生活の4年間になることを願っています。私たちは、みなさんの成長を見守りつつ、手助けが必要な時には支援をしていきたいと思っております。

これからの4年間を久留米大学医学部看護学科の仲間と看護のやりがいや楽しさを見いだせて、共に高みを目指していけるような有意義な時間を過ごされることを願っております。

担任 加藤 陽子先生｜担任補佐 新 裕紀子先生

学生委員長　古村 美津代

夢の実現に向かって

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新入生の皆さんは、今、喜びと期待に満ちあふれていることと思います。

皆さんが目指す看護職は、やりがいのある尊い仕事です。しかし、「人の命」に直接携わる大変厳しい職業でもあります。

これから始まる本学での学びの日々は、決して平坦ではないと思いますが、夢への第一歩を踏み出したことに自信を持ち、自身の夢の実現に向かって一歩ずつ前進してください。

この４年間は、皆さんにとって大変貴重な時間です。大学生活の中で様々なことに果敢に挑戦し、成長してほしいと思います。

皆さんが充実した有意義な学生生活を送られることを願っています。

戴帽式

新2年生

生活支援実習で学んだこと　I.M

今回の実習では、講義で学んできたことを実際の臨床の場で初めて体験し、講義で学べない、空気感、看護師さんの役割、他職種との連携、患者さんの表情や気持ちに触れることができました。また、今年から始まった学外医療施設の実習では、大学病院とは全く違う役割があることを学ばせて頂いたことで、それぞれの存在の重要性を理解することができました。今回の学びは実習だからこそ学ぶことができたことばかりで、改めて実習に行けることのありがたみを感じ、次の実習に向けてさらに知識と技術を身につけていきたいと思いました。

1年生を振り返って　O.T

この1年、大学入学から始まり、新たな出会いと共に新たな生活がスタートしました。県外をはじめ、多方から様々な夢を持った仲間、そして先生方と出会い、改めて看護学への意欲向上に繋がりました。

サークル活動では、学科の壁、学年の壁を越えて、コミュニティーの場を広げ、充実した学校生活を送ることができました。

２年生では、１年生で学んだ知識や技術を踏まえながら、仲間と切磋琢磨し看護について更に追求していきたいと思います。

戴帽式 学生の詞

私たちは、命の大切さを理解し、
一人ひとりの心の声に耳を傾ける姿勢を持ち続けます。
そのために、確かな技術を身につけ、仲間と切磋琢磨し、
喜びを分かち合うことで、豊かな人間性を育てます。
そして、患者とその家族の、喜び、悲しみ、不安に、
寄り添い続ける看護師を目指します。
同じ志を持つ118名の仲間と共に、
私たちをいつも支えてくださる方々への感謝を忘れず、
看護の道を歩んでいくことを誓います。

戴帽式を終えて　U.S

戴帽式を終え、これから看護の道に進んでいくことをより一層深く自覚することができました。入学した頃は、自分が本当に看護師になれるのかとても不安でした。しかし、戴帽式でナースキャップを頂いた時、スタートラインに立てて嬉しい気持ちと同時に、これから看護の道に進むための自覚や決意を持つことができました。これから勉強や実習など、大変なことも沢山あると思いますが、戴帽式の初心の気持ちを思い出しながら、また友達や先生方の力を借りながら、1つずつ乗り越えていきたいです。

このようなコロナ禍の中、戴帽式を行っていただき、ありがとうございました。家族、友人、先生方など、周りで支えてくれる人々に感謝し、これからの学生生活を送りたいと思います。

新3年生

特別講義

「生きる力を引き出す口腔ケア」の学び　S.S

特別講義を受講して、口腔ケアを自力で行うことのできない患者さんの口腔内を清潔に保つことの難しさを感じたと共に、看護者が患者に合わせた口腔ケアができるように道具を工夫し、ケアすることがどれだけ大切で、患者の健康にどれだけ大きく影響するのか理解できました。

また、適切な口腔ケア物品を使用することで、患者に苦痛を与える吸引などを行わずに、効率的かつ効果的にケアを行うことができることは本当に素晴らしいものであると感じました。これにより、口腔ケアに対して患者さんの協力を得やすくなり、患者さん自身も積極的に取り組みやすくなるのではないかと考えました。

もっともっと口腔ケアの重要性を広げ、そしてこの口腔ケア物品を多くの人に利用してもらって笑顔になってもらいたいなと思います。

生活援助実習Ⅱを終えて　T.S

今回の生活援助実習Ⅱで初めて患者さんを受け持ち、ケアをさせていただきました。新型コロナウイルスの影響により、2週間の実習のうち、半分が学内実習となり患者さんと直接接する機会は少なかったのですが、その中でも多くのケアを行うことができました。私の患者さんはADLが低下しており、ほぼ全介助の状態だったため、全身清拭、食事介助、体重測定、おむつ交換、検査室への移送などを行いました。中でも、特に印象に残っているのは食事の場面です。食事摂取量が増えるためにはどうすればよいのか、食事中の様子や日々の過ごし方からアセスメントし、修正しながらケアを行いました。食事摂取量を大幅に増加させることはできませんでしたが、今回の実習を通して得た知識や技術などを生かして今後の実習も精進して参りたいと思います。

高齢者擬似体験を通して学んだこと　I.M

高齢者疑似体験を通して、高齢者の生活の実態や、援助する側として注意点などを感覚的、視覚的、聴覚的に知ることができました。体験では加齢による視野の狭さと白内障を模したゴーグル、円背や運動機能の低下に近づけたおもりや手袋をつけた格好をしました。階段の昇り降りが難しかったり、自販機では小銭が上手くつかめなかったりなど日常生活動作が私達とかなり差があることを体験しました。

重要であったのは観察者の存在で、見守りながら自立できる方向に援助するなど、高齢者役の不安を軽減させることに繋がったと考えました。この体験を通し加齢による変化や高齢者の気持ち、不安を前提とした看護が出来るようにしたいと考えました。

高齢者の方々を理解できるように、実習や講義を通して学びを深めていきたいです。

新4年生

療養生活支援実習Ⅳを終えて　O.E

高齢者実習では、認知症があるからと決めつけて関わるのではなく、1つの個性であると捉えることで、強みを見つけることに繋がることを学びました。

また病気ではないことが健康であるということではなく、様々な施設で実習をさせていただいた中で、コミュニケーションやケアを通して、その方のできることを維持向上させることの大切さを感じました。

今後の実習でも、その方の強みや意思を尊重しながら関わることのできる看護者になれよう努力していきたいと思います。

小児療養生活支援実習を通して　K.A

小児実習は、個別性についてより深く考える実習となりました。子どもは特に発達段階に個人差があるため、手を洗うという行動1つでも、どこまで1人でできるのか、どこから両親の助けが必要なのかなどを知ることで関わり方が異なってくることを学びました。

これまでの実習でも、患者さんへの検査の説明や注意点についての説明を計画したことがありましたが、より個別性のあるものにしていく必要があったと気づきました。これは他の領域でも言えることですが、対象となる患者さんの理解力や認知力を考慮した上で、説明の方法を考えることが必要であると思いました。

今後も個別性のある看護につなげるために、この学びを活かしていきたいです。

療養生活支援実習Ⅰでの学び　T.C

療養生活支援実習Ⅰでは周手術期にある患者さんを受け持たせて頂きました。術後は毎日患者さんの状態が変化し、変化の過程が正常か異常か、現在どのような状態にあるかをムーアの回復過程を用いて日々アセスメントし看護計画を考え実践する重要性と難しさを実感しました。また、術後の回復には術前からの看護介入が重要であり、介入の有無で術後の回復に大きく影響することを実感した実習でした。

2022年度 卒業生

卒業論文発表会を終えて　G.N

私は「認知症高齢者の診断までの困難性に着目した支援のあり方」というテーマで卒業研究を行いました。外部の方にインタビューを行ったことで、実際にどのようなことが困難だったのかを聞くことができ、早期発見、早期受診、早期診断をうけるために必要な支援について考察を深めることができました。今回の研究を通して学んだ看護師として必要な視点や支援方法を就職後に活かし、より良い看護に繋げたいと思います。

総合演習を通して学んだこと　N.A

総合演習では事例を用いた看護アセスメントと教育支援を行い、患者の全体像を捉えて看護を行うことでより効果的な支援を行うことができると改めて学びました。また、シミュレーターを用いた技術演習では実習で行えなかった膀胱留置カテーテル挿入を行いました。実際に行うことで実施手順や注意点を守ることの重要性を確認することができました。看護の動作ひとつで患者さんに不快感や危害を与える可能性もあるため、全ての動作を確実に行い、注意を払って看護を実践していきたいと思います。